

秀賞

赤いオクラ

山形県遊佐町立遊佐中学校

2年 大塚 絢葉

母の日。私は母に「赤いオクラ」をプレゼントした。本当は「きれいな花をプレゼントしよう」と考えていた。しかし、何の花がいいか母に聞いたところ、「野菜の苗がいい」という返事もらったのだ。

早速ホームセンターへ行った。母も一緒に。何がいいかなあと歩き回っていると、おもしろいものを見つけた。オクラだ。しかも、赤い。名前は「レッドサン」。値段も安く、200円もいかないくらい。だからか、少ししおれている。それでも母は「これで！」と私に言う。本当にこれでいいのか、という疑問と、母なりの気遣いも感じながら、「赤いオクラ」ってなに？ という大きなワクワクを胸に、私は母に「赤いオクラ」をプレゼントした。

しかし、わが家は、「植物を育てる」ということにあまり向いていない。キュウリにイチゴ、ミニトマトなど、毎年植物栽培に挑戦しているのだが、水やりは結構忘れる。肥料もさぼる。本当に雑なのだ。どれも成功したためしはない。

今年は赤いオクラがわが家にやってきた。しかも少し元気がない。「今年もまたダメかもしれない」という不安がよぎった。だけど、何としてでも「赤いオクラ」を見たい。食べたい。買ってよかったと思えるように、私が頑張ろう。この決意をしたとき、母の日のプレゼントは、「赤いオクラ」～私の努力付き～になった。

長方形の小さなプランターにオクラの植え付けをした。水も毎日、しっかりやった。だけど元気のないオクラ。肥料もあげてみたが変化なし。手遅れなのか？ 私はどんどん不安になる。

しばらくたち、事件が起こった。家族の不注意で、プランターがひっくり返ってしまったのだ。オクラは無傷だったため、植え直したが、ここからの急成長は期待できないように思えた。

その後、オクラはどんどん元気を失っていき、黄色くなっていった。「もうダメか」と考え始め、水やりもしなくなっていった。ちょうどその頃、東北地方も梅雨入りした。

うとうとうしい雨の日が続いたが、なんと「ただの枯れた草」のように見えていたあのオクラの背が、ほんの少しだけ伸びていた。母も私も大喜び。オクラの根性と強さに、私は感動し、希望を持てた。

しばらくして、学校から帰ってくると、いつもの場所にオクラがなくなって

いた。辺りを見回してみると、これまでよりも大きく、丸い形のプランターに植えられていた。母が、「大きくするには大きめのプランターがいいでしょ。」と植え替えてくれたらしい。このとき、「そうだ。これは母のために買ったオクラだったんだ。絶対成功させないと。」と、今まで忘れていた「赤いオクラ」を育てる責任とこのオクラの大切さを思い出したのだった。

それからというもの、オクラはぐんぐんと成長。梅雨も無事に明け、いよいよ真夏日。大きな被害もあった大雨にもなんとか負けず、今もぐんぐん成長している。生き生きと大きな葉を太陽に向けている姿はとても清々しい。とうとう花も咲き、実をつけ、家族でおいしく食べられる日も、そう遠くはないだろう。

赤いオクラ「レッドサン」との出会いから、今に至るまで、本当にたくさんのエネルギーを私はこのオクラからもらった。あんなにヒョロヒョロだったのに、今では図太く見えるしっかりとした茎が支えている。暑い日差しに私たちはへとへとだが、オクラはこの暑さと太陽を味方に成長していく。このオクラの生きざまには本当に元気をもらう。私も、このオクラに教えてもらったように、「苦手なこと」に粘り強く向き合い、乗り越え、自分の強みを生かせる、そんな人間になりたい。そして、人生で悩んだり、くじけそうになったりしたときには、この「レッドサン」を思い出そう。「赤い太陽」も「赤いオクラ」もきっと私を応援してくれるはず。

この夏、小さな体で大量の雨と太陽を味方に、ぐんぐん成長した「赤いオクラ」は私のエネルギーだ。